

## つくば市の公務員宿舎一斉廃止による 地域・都市への影響分析とまちづくり提案の検討



藤井さやか(システム情報系准教授)・山本幸子(同助教)・大澤義明(同教授)・  
渡辺俊(同教授)・村上暁信(同准教授)・鈴木勉(同教授)・堤盛人(同教授)・  
樋野公宏(連携大学院准教授・(独)建築研究所)

### 1. プロジェクトの背景

筑波研究学園都市の建設が閣議了解されて50年目を迎えた。「陸の孤島」といわれた筑波研究学園都市には約7700戸の公務員宿舎が建設され、移転生活を支えてきた。建設から約40年の間に宿舎地区では緑豊かな都市景観やユニークな教育環境が育まれ、つくばのアイデンティティ形成に寄与してきたが、近年、建物老朽化や空室増加が進み、6年をかけて約2000戸の宿舎を順次廃止し、まちが更新されつつある。このような中、昨年11月末に財務省は全国の公務員宿舎の削減計画を発表し、つくば市内では追加で約2500戸の宿舎が2年以内に廃止されることになり、つくばのアイデンティティの喪失、地域コミュニティの崩壊、乱開発の助長、国家資産売却への悪影響等、地域や都市への多岐に渡る影響が懸念されている。

### 2. 取り組み概要

そこで、筑波大学システム情報系社会工学域都市計画分野では、都市計画を専攻する教員と大学院生が、宿舎廃止の影響と問題について検討を行うことになった。まちづくりに関する大学院演習の一環で、廃止対象を含む現存宿舎約5000戸の居住者アンケート調査を含む調査研究を実施し、公務員宿舎の都市計画理念の確認、住宅・住環境評価、先行宿舎廃止地区での変化と問題、今後の人口・施設への影響予測を行った。またこの調査報告と今後のつくばのまちづくりを考えるシンポジウムを開催した。

### 3. 実施体制

講義及び研究プロジェクトが連携して調査に取り組んだ。

#### 大学院講義

- システム情報工学研究科社会システム工学専攻開講
- 「都市空間のフィールドワーク演習」
- 講義担当者 藤井さやか・山本幸子

#### 科学研究費

- 平成25年度科学研究費基盤研究(A)
- 「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」
- 研究代表者 大澤義明

#### 学内資金

- 筑波大学社会貢献プロジェクト／研究代表者 藤井さやか
- エコシティ推進経費事業／研究代表者 鈴木 勉

### 4. シンポジウムと調査結果

本プロジェクトの調査結果を報告するシンポジウムを開催し、専門家・市民・行政担当者など約200名の参加があった。シンポジウムと調査結果の概要は以下の通り。



日時: 2013年7月6日(土)13:00-16:30  
会場: つくば国際会議場(エポカル)中ホール300  
プログラム:

- 13:00-13:10 挨拶(清水一彦副学長・藤川昌樹社会システム工学専攻長)
- 13:10-13:20 趣旨説明(藤井さやか)
- 13:20-13:30 調査概要説明(山本幸子)
- 13:30-14:25 大学院生による調査成果発表
- 14:25-14:45 休憩
- 14:45-16:20 パネルディスカッション「公務員宿舎のこれまで、これから」  
・ 荻原計画事務所 所長・荻原 敬氏  
・ 日本開発構想研究所 理事・小畑 晴治氏  
・ リビタ 常務取締役・内山 博文氏  
・ 筑波大学システム情報系 教授・谷口 守氏  
・ コーディネーター: 筑波大学システム情報系准教授・藤井さやか
- 16:20-16:30 まとめとお礼(システム情報系社会工学域長大澤義明)

